

# 令和 5 年度 兵庫県立大学環境人間学部入学試験

学校推薦型選抜

帰国生特別選抜

総合型選抜

小論文(120 分)

問題冊子

## 全般的な注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
2. 試験開始後直ちに、表紙を入れて、問題冊子（8 枚）および解答冊子（8 枚）があることを確認すること。
3. 試験中に問題冊子および解答冊子のページ落丁・乱丁、印刷不鮮明、汚れなどに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 解答は、必ず、該当する問題解答用紙の所定欄に記入すること。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

## 必須問題および選択問題についての注意事項

1. 問題は次のとおり、必須問題 1 題と選択問題 2 題の合計 3 題からなっている。  
必須問題    I                      (1 題)  
選択問題    II、III                (2 題)
2. 選択問題は、2 題の中から 1 題を選択すること。なお、選択問題を 2 題とも解答した場合には、全て採点されないので注意すること。

I (必須) 次の英文を読み、問いに答えなさい。

Of the global CO<sub>2</sub> emissions from clothing, the proportion of CO<sub>2</sub> \*emitted by \*apparel supplied to Japan is estimated to be 4.5%. It is estimated to be 95 million tons. The amount of CO<sub>2</sub> emitted from clothing in Japan is estimated to be 9.7 million tons, or 0.8% of the total emissions in Japan.

The water consumption for apparel supplied to Japan is estimated at 8.38 billion \*cubic meters, of which 91.6% is said to be in the raw materials \*procurement stage. It is estimated that 9% of the water consumed by the fashion industry worldwide is consumed by apparel supplied to Japan. It is said that 2,368 liters of water is required to produce one dress.

Clothing is said to have a heavy environmental impact all the way from production through use and disposal. The shift from “mass production, mass consumption, and mass disposal” to “\*optimal production, optimal purchase, circular use” is highly desired. When producers and consumers both work with creative ideas on their own, it becomes possible to shift to “sustainable fashion,” which is both appealing to the heart and helpful for environmental impact reduction.

On the part of the producers, efforts in this direction have begun. Environmental impact reduction efforts in production include the use of environmentally friendly cotton and recycled PET plastic bottles and the reduction of water consumption. In the product development stage, efforts are also \*underway, for example, fabrics that release few fiber fragments to prevent \*microplastic problems.

The industry has also started public education on environmental information by visualizing CO<sub>2</sub> emissions and other environmental impacts and labeling of sustainable materials. Hopefully, such efforts will be enhanced in the future.

To help realize “sustainable fashion,” consumers on their part can take actions to move to “optimal production, optimal purchase, circular use” of clothes. There are five such actions. Consumers can begin with one or two actions immediately.

- [1] Take good care of clothes, repair them, and wear them for a long time.
- [2] Enjoy fashion through \*hand-me-downs and trading secondhand clothes.
- [3] Choose a piece that can be worn for a long time.
- [4] Choose clothes made of environmentally friendly materials.
- [5] Put out your old clothes to store take-backs or community collection programs for material recycling.

(Ministry of the Environment, 'Creating a Sustainable Society at Community and Personal Levels', *ANNUAL REPORT ON THE ENVIRONMENT IN JAPAN 2021*, Chapter 3, 2021. 一部改変)

\*emit 放出する

\*apparel 衣料品

\*cubic meter 立方メートル

\*procurement stage 調達段階

\*optimal 最適な

\*underway 進行中で

\*microplastic problem マイクロプラスチック問題

\*hand-me-down (服の) お下がり、古着

【問 1】本文の内容を、300 字以内の日本語で要約しなさい。

【問 2】本文に書かれているような消費者の「sustainable fashion」を実現するための行動を、あなたが住んでいる地域で、より普及させる具体的な方策として、どのようなことが提案できるか。あなたの考えを 400 字以内の日本語で書きなさい。

【問 1】、【問 2】の解答に共通する記述上の注意事項

(1) かぎ括弧や句読点も字数に含む。

(2) 数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 文字まで記載して良い。

(3) 「CO<sub>2</sub>」、「%」や単位記号については 1 マスに記載して良い。

Ⅱ (選択) 次の文章を読み、問いに答えなさい。

日本人の承認欲求の表れ方、満たし方には二つの特徴があった。

一つは、濃密な人間関係のなかで仕事の能力や業績にとどまらず、全人格的に認められるということ。もう一つは「偉さ」の序列が存在し、それを見せびらかすことによって承認欲求、とりわけ「尊敬の欲求」を満たそうとすることである。

二つとも共同体型組織という日本特有の組織を前提にしている。ところが、共同体型組織そのものがグローバル化やデジタル化、それに経済水準の向上や社会インフラの整備などによって時代に合わなくなってきた。そこへ突然やってきたコロナ禍とテレワークが、①共同体型組織の限界を決定的なものにしたといつてよい。

では共同体型組織から脱却すると同時に、日本人特有の承認欲求の表れ方も、満たし方もすべて否定し、ただ表面的な欧米型の社会像を目指せばよいのか。

たしかに会社共同体の呪縛が解かれ、働く人たちが外の世界につながるようになれば、承認されるチャンスは広がる。しかし上っ面だけで欧米型社会をとらえて見習うだけでは、いつまでも欧米を追いかけることになる。グローバルな時代だからこそ、安易なキャッチアップ型の思考から脱却すべきなのではないか。

そこで冷静に足下を見つめてみると、共同体型組織に特有な人々の関係性や行動様式のなかには、むしろ強みとして生かせるものがあることがわかる。

その一つが、共同体のなかで育まれてきた「②濃い関係」である。

(中略)

「濃い関係」の強みの一つは、参入障壁が高いことである。いわゆる暗黙知を共有し、信頼関係が築けるのはかぎられた人たちの間だけであり、だれでもメンバーとして加われるわけではないし、同じようなネットワークをすぐにつくれるわけでもない。したがって「濃い関係」を有する者は、長期にわたって特殊利益を獲得し続けられるのである。

とくに「濃い関係」のなかで得られる情報は、グローバル化、ソフト化の進んだ今日、いちだんと貴重な価値を持つようになっている。インターネットなどの普及によって、だれでも、どこにいても瞬時に必要な情報が得られるようになったが、そこで得られるのはあくまでも一般的な情報である。自分が得られる情報は、ライバルも同じように獲得できる。つまり遍在する情報の獲得は、必要条件であっても十分条件ではないのだ。

ソフトの世界では情報の質が決定的に重要である。それがすべてだといってもよい。だからこそ、ユニーク（唯一）で質の高い情報が得られる「濃い関係」が競争を勝ち抜くうえで強力な武器になるのである。

(中略)

もう一つは、承認欲求とりわけ「尊敬の欲求」を高い水準で満たす手段として、また強力なモチベーションの源泉として「見せびらかし」を再評価することである。

すでに述べたとおり日本人は自己効力感を得るためにも、社会的に認められることが必要である。そしてテレワークが普及し、進化すれば承認される機会はこれまで以上に広がる。その可能性は無限大だといっても過言ではない。しかし見落としてならないのは、〈承認され

る〉のと〈承認欲求が満たされる〉のとは別だという点である。いくら周囲から認められ、尊敬されても内面にある承認欲求が満たされるとはかぎらないのだ。

(中略)

そこで、まず⑥見せびらかすものの中身を見直さなければならない。

「偉い」の英語は great だが、日本語だと「偉ぶる」とか「偉そうに」などの言葉から連想するように、不遜、威張る、見下すといったネガティブなイメージがついて回る。しかも基準が一元的であり、ときには身分的な序列にまでつながるおそれがある。

そもそも偉さの見せびらかしは、開かれた世界では構造的にも成り立たない。偉さが一元的な尺度である以上、必ず「偉い人」と「偉くない人」ができてくる。承認欲求を満たせるのは偉い人だけなのだ。したがって会社のように閉ざされた共同体ならともかく、出入り自由な場では留まることによほどのメリットがないかぎり、偉さを見せつけられる人は退出してしまう。つまり開かれたコミュニティでは、偉さを見せびらかすこと自体が困難なのである。

では、「偉い」に代わるものは何か？

条件としては、まず能力、実績、個性などがそれぞれ多様な次元で認められること。また欲求の性質上、そこには多少なりとも人格的な承認が含まれていなければならない。実際にこの後で述べるような場で交わされる会話のなかから、その条件に合う言葉を探すと、「すごい」とか「さすが」といった言葉が浮かび上がってくる。ちなみに「偉い」という表現は、社会的に名声が確立された人に使われるくらいでよいのではなかろうか。

つぎの課題は、それを見せびらかせる場をどこに見つけるかである。

視野を広げてみると、見せびらかしは、必ずしも閉ざされた共同体のなかで行われているとはかぎらないことがわかる。会社のような組織に属さない人たちも、「社交の場」という名のもとに各自の能力・実績や個性などを見せびらかす機会をつくってきた。

農村では昔から農作業の合間、合間に祭や宴が催されてきたし、商店主や士業の人たちにとっては会員どうしの親睦旅行、ゴルフコンペ、交流会などがその役割を果たしている。宴会で興が乗ると参加者はだんだんと本心を吐露するようになり、自分がどんな仕事をしたか、それにどれだけの価値があるかをアピールしたり、仲間内での人望を競い合ったりする。

孤独な職業と見られがちな作家や芸術家たちも、バーやサロンでは他人の作品を批評しながら自分の作風や表現力、視点のユニークさなどをそれとなく自慢する。学者の世界ももちろん例外ではない。学会の懇親会などでは、勲章をもらった人、有識者会議の常連、ベストセラーを出した人などは取り巻く人たちに、選ばれた人しか知らないエピソードを誇らしげに披露する。

社交の場は「承認の場」「見せびらかしの場」でもあるのだ。

(太田肇『日本人の承認欲求 テレワークがさらした深層』新潮新書、2022、一部改変)

- 【問 1】下線①「共同体型組織の限界」とはどういうことか、日本人の承認欲求と絡めて、本文中の言葉を用いながら 200 字以内で説明しなさい（句読点も字数に含む）。
- 【問 2】下線②「濃い関係」とあるが、グローバルな時代において強みとなる「濃い関係」とはどのような関係か、本文中の言葉を用いながら 150 字以内で説明しなさい（句読点も字数に含む）。
- 【問 3】下線③「見せびらかすものの中身を見直さなければならない」について、筆者の意見を本文中の言葉を用いながら述べた上で、あなたなら見せびらかすものの中身をどのように見直すことができるか、あなたの見聞や経験を踏まえ、400 字以内で述べなさい（句読点も字数に含む）。

#### Ⅳ （選択） 次の文章を読み、問いに答えなさい。

2020（令和2）年、世界は「新型コロナウイルス感染症」一色であった。我が国でも、1月に国内初の患者が確認され、2月にはクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応、大規模イベントの中止、延期等の要請が行われるとともに、3月に入ると小・中学校、高校等に臨時休校が要請された。4月には初めて「緊急事態宣言」<sup>※1</sup>が発出され、社会・経済活動は大きく制約されることとなった。

外出自粛をはじめ、人と人との接触機会の減少が要請されるなか、仕事の面では、非正規雇用労働者を中心に休業等を余儀なくされる者が多数生じた。図1は、産業別にみた女性雇用の割合を示したものである。なお、ここに示したいずれの業種においても、「パート・アルバイト」として勤務する者の割合は、女性の方が男性よりも高い。生活の面では、テレワーク等により家庭が「職場」になり、休校により家庭が「学校」となったことで、男女を問わず在宅時間が増加した。

ウイルスの特性がよくわからなかった最初の感染拡大期においては、以上のように人の動きを止め、人と人との接触を極力減らす対策がとられた。これにより感染は5月に入ると一旦収束し、緊急事態宣言も同月中に段階的に解除されたが、経済活動の多くを止める措置をとったことで、経済や雇用、人々の生活に大きな影響が生じた。

雇用への影響についてみると、まず、独立行政法人労働政策研究・研修機構が実施した2020年5月末時点調査から、①男性の休業者<sup>※2</sup>比率が1.6%であるのに対し、女性では5.3%であり、特に子育て女性<sup>※3</sup>では7.1%に達していた。次に、2020年5月以降、休業者数は男女ともに減少傾向にあったが、7月末時点、11月末時点においても、女性の休業者比率（1.8%）は男性（0.4%）を上回ったままであった。さらに、新型コロナ感染拡大前の月（通常月）と比較した労働時間と月収の水準の推移を見ると（図2）、②特に子育て女性について、2020年4～5月の落ち込みが深く、かつ、6～7月の回復の度合いも低かった。8月以降は男性が頭打ちとなっている一方、女性では改善が見られたが、子育て女性では改善の度合いが女性全体よりもやや低くなっていた。

次に、生活への影響についてみると、在宅勤務の増加や学校の臨時休校により、在宅時間が増加し、家事や育児に割かなければならない時間が増加する中で、家事・育児の夫婦間の分担に変化が生じた。なかでも、勤務時間の短縮やテレワーク等、働き方が変化した男性に、家事・育児の役割分担を増やす動きが見られた。家事・育児に関する夫婦間の役割分担について、子育て世帯のなかで、「夫の役割が増加した」と回答した者の割合は26.4%であり、「夫の働き方に変化あり」と回答した女性の回答のみを集計すると31.7%であった。他方、自粛生活により家事・育児負担の絶対量が増加し、家事・育児時間自体も増えたが、男性が増やした時間以上に、女性が時間を増やしていたことも明らかとなっている（2019年12月時点を100とすると、2022年5月時点で男性103.6、女性111.7）。民間シンクタンクの調査によると、家事・育児に費やす時間を新型コロナ感染拡大前と比較した場合、2020年4月時点で「増えた」と回答した者は、子育て男性・女性ともに約7割であった。しかし、増えた家事・

空 白

育児時間の捻出方法は、男性と女性で違いが見られた（図3）。

以上のように、雇用や生活に様々な影響が生じるなか、②生活全体の満足度は、新型コロナ感染拡大前に比べて男性、女性ともに低下したが、女性の低下幅は男性と比べて大きかったことも明らかとなった（表1）。一方で、内閣府の調査からは、家事・育児の負荷が女性により多くかかっていたなかでも、夫婦の家事・育児の役割分担において、夫の役割が増加した家庭では、女性（妻）の生活満足度の低下幅が小さい傾向にあり、加えて、男性（夫）自身の低下幅も小さかったことも明らかとなっている。さらに、小学校3年生以下の子どもがいる男女に対し、「第一回緊急事態宣言を経て、今後、家事・育児に望むこと」を尋ねたところ、「配偶者にもっと家事をしてほしい」は、男性15.9%に対し、女性32.1%、「配偶者にもっと子どもの世話をしてほしい」は、男性14.6%に対し、女性35.5%であり、いずれも女性の方が高かった。「自分の子どもの世話の時間を増やしたい」は、男性27.4%に対し、女性16.5%と男性の方が高いこともわかった。これらの結果からは、新型コロナ感染拡大の影響により家事・育児負担が増えたことで、家庭内の役割分担をさらに見直していこうとする意識が芽生えていることがうかがわれる。

（本文は、厚生労働省（2021）『令和3年版 厚生労働白書 - 新型コロナウイルス感染症と社会保障 -』より抜粋、改変）

注1：「緊急事態宣言」とは、新型コロナウイルス対策の特別措置法（2020年当時）に基づく措置のことで、対象区域の都道府県知事より、在宅勤務（テレワーク）、休校、飲食店の時短営業、不要不急の外出自粛等の要請が行われた。

注2：「休業者」とは、雇用されているが、就業時間ゼロの者のことである。

注3：「子育て女性」とは、18歳未満の子どもを育てている女性のことである。

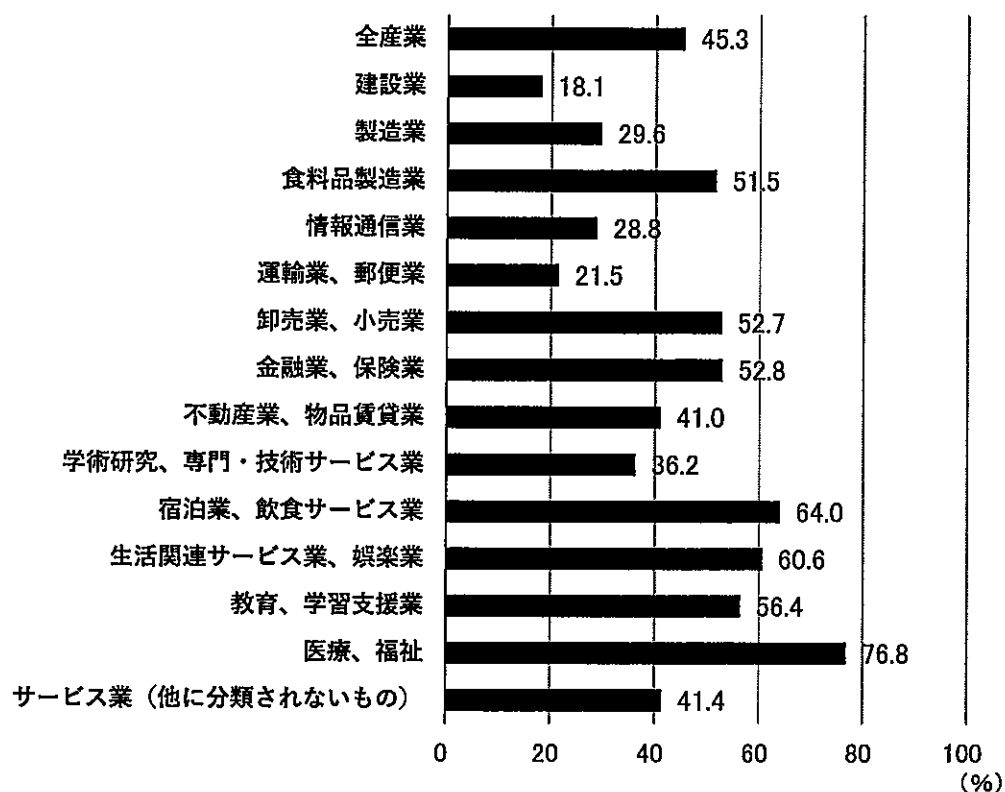


図1 産業別女性雇用者の割合（2019年度）

（出典）総務省統計局「労働力調査」（2019）より出題者作成

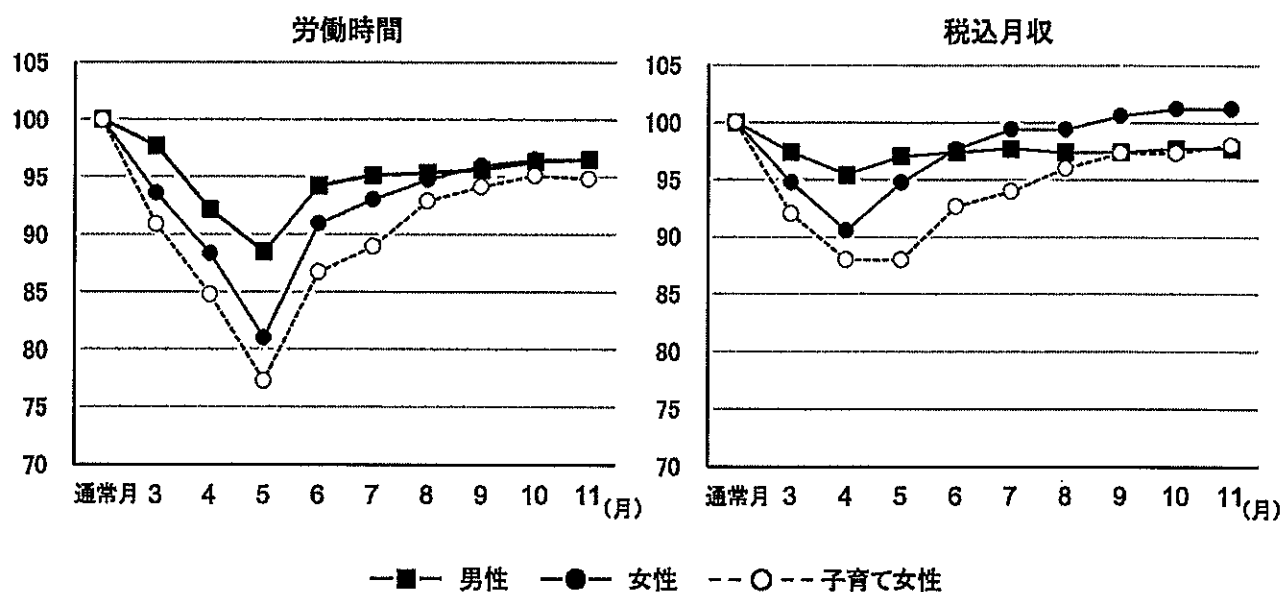


図2 労働時間と月収の推移（2020年3月～11月）

（出典）独立行政法人労働政策研究・研修機構「JILPT リサーチアイ第55回  
 コロナショックの被害は女性に集中（続編Ⅱ）」（2021）より出題者作成  
 通常月を100とした割合で示した

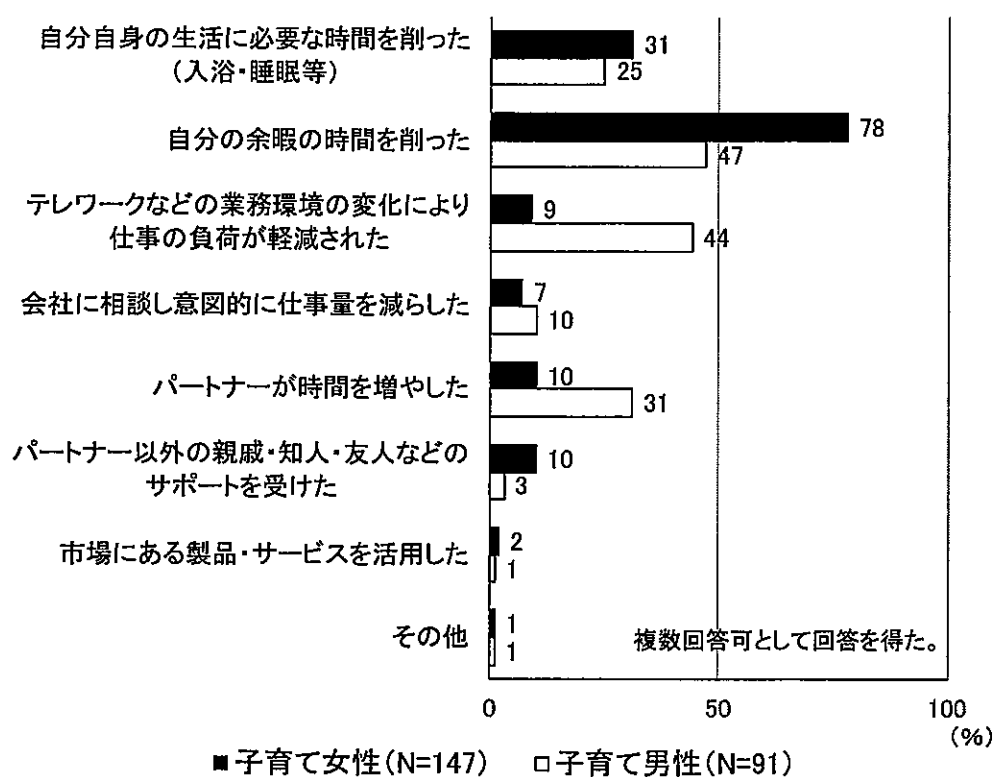


図3 増えた家事・育児時間の捻出方法

(出典)厚生労働省(2021)『令和3年版 厚生労働白書 - 新型コロナウイルス感染症と社会保障 -』

表1 新型コロナウイルス感染症拡大前後の生活全体の満足度の変化<sup>\*1</sup>

|     | 単位：点   |        |
|-----|--------|--------|
|     | 感染症拡大前 | 感染症影響下 |
| 男性  | 5.81   | 4.55   |
| 女性  | 6.11   | 4.41   |
| 男女計 | 5.96   | 4.48   |

\*1: 「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点として回答。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前、感染症影響下、それぞれの平均値。

(出典) 内閣府「『満足度・生活の質に関する調査』に関する第4次報告書」(2020)より出題者作成

【問 1】下線部①について、なぜ、子育て女性で、4～5 月の労働時間と月収の落ち込みが深かったのか。本文の内容と図 1、2 から読み取れることをもとに、どのような推測ができるのかを 200 字以内で説明しなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。

【問 2】下線部②について、なぜ、女性では、生活全体の満足度の低下幅が男性より大きかったのか。本文の内容と図表から読み取れることをもとに、どのような推測ができるのかを 200 字以内で記述しなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。

【問 3】新型コロナウイルス感染拡大により、子育て中の女性に大きな負荷がかかった。性差によって負担に偏りが生じない社会づくりのためには、雇用と家庭生活の両方においてどのような対策が必要か。本文と図表の内容を読んだ上で、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。

空 白